

高校でのトレーニング

高校に進学すると、1年生の情報の授業ではやや高度な Skill の習得に移ります。これは、たびたび紹介してきました個人課題研究が1年生の1月から始まるからです。まずは情報の検索方法としてインターネットと図書館の利用方法を詳しく学びます。正確で有効な情報を発見し、分類し、論理的に並び替え、絞り込んでいく手順を学びます。これが後に、個人課題研究で個人が設定したテーマに関する情報を検索していく際に大変役に立ちます。アンケート調査の実習を行い、あるテーマのもとに仮説を設定し、その仮説を検証するための選択肢の作り方、得られたデータの処理方法とグラフ化の方法や表計算の方法を学び、レポートを作成します。その他に、さまざまな研究方法論を学び、同時に情報モラルについて体験的に実習していきます。ここまでの Skills を

すべて駆使して、「17歳の卒論」個人課題研究に進んでいきます。2年生の12月まで、授業時間以外の膨大な時間を費やししながら、紹介してきたような調査研究に全員が取り組むのです。

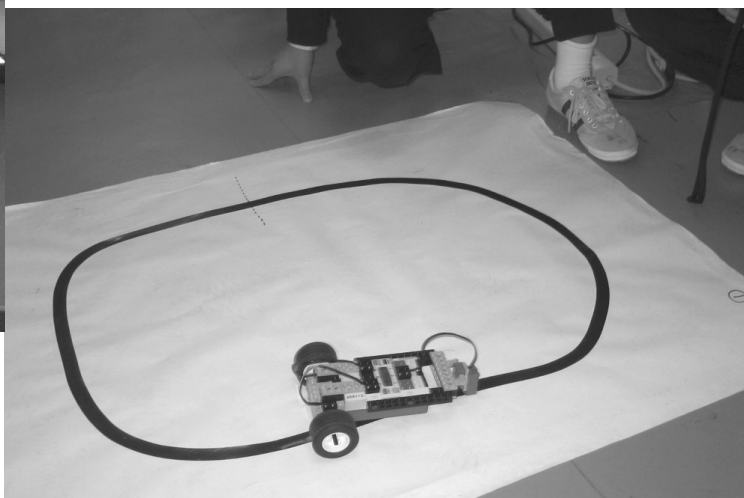
最後の3年生の情報の授業は「情報社会を生きる」ということがテーマです。そのためにまずデータ分析の方法を学びます。数値データをどう分析すべきなのかや表計算結果の相関分析の方法を学びます。その他に、ITの解説や情報社会におけるメディアリテラシー、社会のあり方の講義を受け、学んだ内容を自己の中に昇華させていきます。



子どもたちは基本的にコンピュータが大好きです。機械を操作し、インターネットや電子メールに接続したり、描画ソフトを用いてイラストを作成するなど、休み時間や放課後のコンピュータ室はいつも満員です。

しかし、茗溪学園ではコンピュータを用いて自分自身の Skills を向上させていく方法を学びます。パソコンやインターネットが使えることはさほど重要ではない、技術は適切に用いることによってこそ活用される、情報教育の本質はむしろコミュニケーションにある、という考えが茗溪学園にあります。

通信技術が発達しようとも、そのベースになっているのは人対人のコミュニケーションです。一人ひとりの気持ちを大切にしたいメッセージの交換。人に優しい表現。さらに、自分の考えやアイデアを効果的に伝える Skill も必須の能力となりつつあります。これらの教育活動を多くの教科の授業や課外活動の中に組み込んでいます。



中学2年技術 PC制御ロボット製作の実習

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学校高等学校 教務部長



化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。よろしくお願いします。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp

編集長から一言

今回はコミュニケーション・ツールと道具としての「コンピュータ」のトレーニングの報告です。

前回の「英語」も、今回の「コンピュータ」も、コミュニケーションのスキルととらえて、トレーニングしています。そのトレーニングを、学年毎のカリキュラムに組み込んであるのが分かります。六年一貫システムの長所を生かした、茗溪学園の教育の特徴です。

茗溪学園は卒業生の半数近くが理系の学部に進学するという、普通高校としては、珍しい学校です。その理由の一つに、ここで紹介されているトレーニングがあると思います。もちろん、田代先生をはじめとして、多くの理科系科目の優秀な先生がおられることも知っていますよ。